

会 議 録

会議の名称	第4回一般廃棄物処理施設整備検討委員会
開催日時	平成29年1月26日(木) 午後1時30分から午後2時30分まで
開催場所	能代山本広域交流センター 多目的ホール
出席委員等	<p>【委員】 鶴田 俊 公立大学法人秋田県立大学 教授 濱田 雅巳 公益社団法人全国都市清掃会議 技術部長 川村 之聡 秋田県 生活環境部環境整備課 課長 宮腰 慶聡 能代市 藤田 定 能代市 (委員長) 淡路 和春 藤里町 加賀谷 道則 三種町 (副委員長) 平塚 三千男 三種町 辻 正英 八峰町 金平 公明 八峰町</p> <p>【オブザーバー】 袴田 功 能代市 環境産業部環境衛生課 課長 村岡 徳一 藤里町 生活環境課 課長 川村 義之 三種町 町民生活課 課長 須藤 徳雄 八峰町 総務課 課長</p>
欠席委員等	<p>【委員】 淡路 高江 藤里町</p>
事務局職員等	<p>【能代山本広域市町村圏組合】 事務局長 吉田 昌純 事務局次長 佐藤 隆一 環境衛生課 課長 有山 勇 環境衛生課 課長補佐 田村 典勝 環境衛生課 主査 笹村 敬之</p> <p>【説明補助員】 一般財団法人日本環境衛生センター 環境工学部 部長 佐藤 幸世 " 事業推進役 是則 恭士 " 課長 増淵 淳一 " 計画建設技術課 課長代理 植木 祥治</p>
次 第	1 開会 2 委員長あいさつ 3 報告 (1) 可燃ごみ処理施設の処理方式の評価の修正について

	<p>4 案件 (1) 一般廃棄物処理施設の処理方式等検討結果報告書について (2) 一般廃棄物処理施設の用地選定の進め方について</p> <p>5 その他 6 閉会</p>
配布資料	<p>資料1 可燃ごみ処理施設の処理方式の評価について(修正版) 資料2 一般廃棄物処理施設の処理方式等検討結果報告書(案) 資料3 一般廃棄物処理施設の用地選定の進め方について</p>
発言者	案件・発言・結果等
事務局	1) 開会
委員長	2) 委員長あいさつ
事務局	3) 報告 (1) 可燃ごみ処理施設の処理方式の評価の修正について 〈 資料1に基づき説明 〉
委員	評価の修正はこのとおりでよいと思うが、最終処分量が少ない方式については、処分量が減少する分、有害な重金属類の濃度は高くなる。現行より濃度が高くなる場合、最終処分場の濃度規制の範囲に収まるか検討しておいた方がよい。
事務局	最終処分場の埋立基準を順守できるよう検討する。
事務局	4) 案件 (1) 一般廃棄物処理施設の処理方式等検討結果報告書について 〈 資料2に基づき説明 〉
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・可燃ごみ処理施設の処理方式は、「ストーカ式焼却方式」が望ましい。 ・不燃ごみ・粗大ごみ処理施設は、可燃ごみ処理施設に併設して建設することが望ましい。 ・最終処分方法については、当面は委託処分することとし、現時点では判断を保留とする。委託処分先の埋立状況、構成市町の一般廃棄物処理基本計画等や意向を踏まえ、検討することが望ましい。 <p>可燃ごみ処理施設の処理方式については、必要な評価項目を設定し、その評価の仕方として、将来的にごみ量が減少する中で、運転状態が変わった時などの変動も踏まえた結果であり、妥当だと考える。</p> <p>最終処分については、将来の見通しを含めて不確定要素が多く、現時点で決めようとするとは後で困ることになりかねない。ごみ処理施設の整備を進め、最終処分は将来の検討ということで、妥当な結論だと思う。</p>
委員長	報告書は、原案どおりとしてよいか。
委員	異議なし。
委員長	原案どおり決定し、組合へ報告書を提出する。

事務局	<p>(2) 一般廃棄物処理施設の用地選定の進め方について 〈 資料3に基づき説明 〉 平成29年度からの用地選定に向けて、用地選方法の一般的な例を示す。</p>
委員	<p>自然環境保全等の立地制限があるが、その他に道路、電力、水の確保などが必要となる。また、災害時の輸送道路についても考慮する必要がある。県が想定している配置や計画等があるのか確認しているか。</p>
事務局	<p>県には確認していないが、他にも様々な条件がある。法規制以外に学校・病院・福祉施設、集落から離れている方がよいなどがあり、次回の第5回検討委員会で条件を検討したい。</p>
委員	<p>用地選定の条件を決めるのが一番難しい。最初の条件をどれだけ狭めるかによって、その後の流れが変わってくる。条件については、委員会で十分検討する必要がある。</p>
委員	<p>全体の流れとして、本委員会では三次選定まで行い、複数地を候補として組合に報告し、組合の理事会や議会で決定するというところでよいか。</p>
事務局	<p>候補地選定の評価結果にもよるが、本委員会では複数候補地の選定が考えられる。</p>
委員	<p>この資料の選定手順は、一般的な流れである。一次選定では、機械的に条件を満たす用地を抽出すると思われる。二次選定以降では、委員会で条件等を検討し、意思統一を図った上で絞り込んで候補地を選定することが考えられる。 ごみ処理施設は必要な施設であり、最終的には住民合意が重要であるため、住民に対して説明できるように本委員会として適地を選定する必要がある。</p>
事務局	<p>住民のご理解が得られるよう、適切な候補地の選定をお願いしたい。 また、用地選定に当たって、オブザーバーの構成市町にもご協力をお願いしたい。</p>
委員長	<p>構成市町と十分協議し、住民への説明やご理解を得ながら進めていくことになると思うので、オブザーバーの方々にはよろしく願います。</p>
委員	<p>地盤や地下水の状況も考慮した方がよい。また、冬期間の収集運搬を考慮すると、積雪や除雪についても検討が必要である。 用地選定には様々な条件があることから、候補地が高い評価にならないことも考えられる。その場合、最低限必要な条件を満たした上で、その他の優先順位を明確にして選定する必要がある。</p>
委員長	<p>考慮しなければならない条件がたくさんあるが、今後の委員会で検討することになるので、事務局に資料等の準備をお願いする。 用地選定は難しい課題であるが、委員の皆様には引き続きよろしく願います。</p>

<p>事務局長</p>	<p>5) その他 この1年で、処理方式等の検討結果を報告書にまとめていただき、心からお礼申し上げます。</p> <p>秋田県の人口減少率は全国一であり、この地域は過疎化が進んでいる。人口は減少するものの集約化が難しい中で、施設をどこに作った方が住民にとって利便性がよいか、検討課題だと思っている。</p> <p>来年度以降は一番大事な用地選定になるが、本委員会の皆様のお力をお借りしながら、この地域にとってよりよい施設をつくりたいと思っているので、ご協力をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>用地選定に係る会議は、5月頃の開催を予定している。</p> <p>6) 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>